

第41回

凍ることで

さらに魅力を増す

神が宿る湖へ

この数年、取材などで道東に行く機会に恵まれている。ただ、夏場が多い。かなり広い地域を移動することが理由だけど、2月に訪れた時、本当に魅力的なのは冬なのだと思う。網走の流氷や知床、鶴居のタンチョウ、硫黄山、摩周湖や屈斜路湖、SL湿原号など、地形の魅力が創り出す自然の美しさを上げるとキリがない。全てを見たり体験したりしたわけではないが、雄大な景色の冬の姿に素晴らしさを感じている。

私は北海道の山の中で育ったので、冬は氷点下が当たり前で、自分の水蒸気で鼻の中やまつ毛が凍る経験も小学生の時は当たり前だった。しかし、その厳しい自然環境が織りなす美しさも絶品で、夜だけじゃない天気の良い日の日中に見るスターダスト、そして雪の結晶や足跡のない雪原。今思い返すと厳しくも美しい環境が当たり前で暮らしの中にあった。

北欧のフィンランドの建築家アアルトの映画を最近見た。自然と人の暮らしが寄り添うこと、それを忘れてはいけないと、アアルトが映画が伝えていた。映画の中では第2次世界大戦の映像も出てくる。日々ははっきりすると近視眼的に過ごしてしまうのだけど、少し引いて見つめることも必要だと思う。日々は小さなことの積み重ね。それが世界に平和につながっているのが今の時代なのだと思う。だからこそ、日々の暮らしが平和で笑顔にあふれたものでありたい。

これからの北海道が、この雄大な自然に寄り添い、厳しくとも美しく、穏やかで心地よい環境を作り、その中で伸びやかに子どもたちが未来を想像していける。そんな大地になりますようにと新年に願う。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: さざやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。